

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：32717
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：17H02711
研究課題名（和文）新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究

研究課題名（英文）Public

研究代表者
谷田部 玲生（Yatabe, Reio）
桐蔭横浜大学・法学部・教授

研究者番号：30311137
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、高等学校の教育課程に新たに設置される公民科新科目「公共」の趣旨をふまえた公民教育を実現するため、「公共」の実施に関わる課題を調査するとともに、「公共」の単元開発を行った。まず、本研究の調査では、新科目「公共」の実施に向けて教師や学校がそれをどのように受け止め、何を期待し、何に不安を抱いているか、さらには、「公共」の効果的な実施を妨げる要因があるとしたら、それは何かを明らかにした。また、単元開発及び実践研究に基づく評価・改善では、「公共」の内容項目に合わせて単元開発を行いモデルプランを作成した。また、「公共」とつながる小中学校社会科のモデルプランも作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、高等学校の教育課程に令和4年度から新たに設置される公民科の新科目「公共」についての先行的な研究である。この研究は、日本公民教育学会が全体で取り組んだものであり、令和4年度からの高等学校新科目「公共」の実践に大きく役立つとともに、高等学校公民科の授業改善にも資するものである。

研究成果の概要（英文）：This Research investigated the issue of Japanese High School new Subject "Public" and developed the Unit of "Public".
The Survey asked: How do you take "Public"? What do you expect from the "Public"? What are the "Public" concerns? What are the "Public" issues? etc.
In the Unit Development, we created the "Public" Model Plans. We also created the Model Plans for Social Studies at Elementary and Junior High School that is connected to "Public".

研究分野：社会科教育学

キーワード：高等学校公民 新科目「公共」 単元開発 公民教育 高等学校公民科 公共

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

文部科学省は、平成30年3月30日に学校教育法施行規則の一部改正と高等学校学習指導要領の改訂を行った。新高等学校学習指導要領等は、令和4年度から年次進行で実施される。今回の改訂では、高等学校公民科に新しい科目「公共」が必修科目として設置された。この科目は現在実施されている「現代社会」などとは、目標、内容などが大きく異なり、実際にどのような授業を実施すべきかなど、検討すべきことは多い。

そこで、日本公民教育学会では、科学研究費補助金などによるこれまでの学会の研究成果、学会員の研究などをもとに、学会として新科目「公共」について研究を実施することとした。

2. 研究の目的

本研究は、高等学校の教育課程に新たに設置される公民科新科目「公共」の趣旨をふまえた公民教育、授業を実現するため、

- (1) 「公共」の実施に関わる課題の調査
- (2) 「公共」の単元モデルプランの開発

を実施することを目的とした。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、以下の方法で研究を実施した。なお、日本公民教育学会全体で研究に取り組むため、研究の開始時点で学会員全員にこの研究の目標、内容等を紹介し、参加者を募って研究組織を立ち上げ、研究を実施した。

- (1) 「公共」の実施に関わる課題の調査

調査研究では、公民教育に関わる教員や研究者に対するアンケート調査と、公民科を担当している教員に対するインタビュー調査を行った。アンケート調査は、インターネットを通して行った。また、インタビュー調査は、グループのメンバーが各地の公民科担当教員に依頼して協力者を募り実施をした。

- (2) 「公共」の単元モデルプランの開発

単元モデルプランの開発は、高等学校学習指導要領公民「公共」の内容構成に基づいて以下のグループを作り、それぞれで単元モデルプランの開発を実施した。単元開発に際しては、作成したモデルプランを可能な限り実践して改善することにより、モデルプランの質的な向上を図った。

A. 公共的な空間における在り方生き方に関する単元開発グループ

- 公共性に関する単元開発、倫理的主体に関する単元開発

B. 社会に参画する主体育成に関する単元開発グループ

- ①政治的主体に関する単元開発チーム
- ②経済的主体に関する単元開発チーム
- ③法的主体に関する単元開発チーム
- ④知的主体に関する単元開発チーム

C. 持続可能な社会づくりに関する単元開発グループ

- 地域社会に関する単元開発、持続可能な国家に関する単元開発、国際社会に関する単元開発

4. 研究成果

(1) 「公共」の実施に関わる課題の調査

調査においては、予備調査を踏まえて、16名の年代や経験年数の異なる様々な教員に、2018年10月から2019年3月までの期間に、インタビューを行った（うち2名については、予備調査と同一の協力者であり、学習指導要領解説公表後の動向を探るために、メールで追調査を実施した）。

インタビュー時に実施した質問紙では、①「「現代社会」から「公共」への変化についてどのようにお考えですか」、②「必修科目「公共」の新設に賛成ですか、それとも反対ですか」をそれぞれ4件法で尋ねた。現在までに明らかになった結果では、変化を感じる見解が多い一方で、賛否については考えが分かっていた。

同様に、「公共」の内容（「A 公共の扉」「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」）について、③「「公共」を担当することになった場合、重視したい項目は何ですか。順位付けをしてください。また、年間の時間配分につきまして、どの程度配分したいと考えていますか。割合を記入してください。」と尋ねた。Bを最も重視する教員が多くみられ（9名）、時間配分については見解に相違がみられた。

インタビュー調査の結果からも、アンケート調査と同様に、「公共」の設置に大きな期待が寄せられる一方で、その受け止め方は個々の教員によって異なっていることと、そのことが3つの内容の捉え方の違いとなって表れていることが明らかになった。

(2) 「公共」の単元モデルプランの開発

各グループの成果は以下のとおりである。

A. 公共的な空間における在り方生き方に関する単元開発グループ

以下の6つのモデルプランを開発した。

「公共的な空間を作る私たち」チーム

- 『「死後生」のイメージから生の意味を考える」 高等学校「公共」

「公共的な空間における人としての在り方生き方」チーム

- 「功利主義と義務論」 高等学校「公共」
- 「障害者の高校入試」 中学校社会公民的分野
- 「契約とコンサートチケット」 中学校社会公民的分野 中学公民

「公共的な空間における基本原理」チーム

- 「社会契約説をシミュレーションする」 高等学校「公共」
- 「小学生に対する憲法学習」 小学校社会

B. 社会に参画する主体育成に関する単元開発グループ

①政治的主体に関する単元開発チーム

「政治的主体」チームは、小学校のモデルプランを2本、高等学校公民科「公共」に関しては、「政治参加と公正な世論の形成」をテーマにしたモデルプランを4本、「地方自治」をテーマにしたモデルプランを5本、「国家主権」「領土(領海、領空を含む)」をテーマにしたモデルプランを2本、「我が国の安全保障と防衛」をテーマにしたモデルプランを1本、「国際貢献を含む国際社会における我が国の役割」をテーマにしたモデルプランを1本、学習指導要領の文言には明示されていないが、構造的暴力に相当する「貧困」をテーマにしたモデルプランを1本の16本のモデルプランを開発した。

②経済的主体に関する単元開発チーム

ア 中学校社会科と高等学校「公共」の接続を意識したことにより、中学校段階で把握して

おく必要がある概念（例：対立と合意）と中学校段階では活用が難しい概念（例：正義と幸福）を明らかにすることができた。

イ 大項目A（公共の扉）の段階で身につけた概念と大項目B（経済的主体に関わる課題）での学習での活用方法、さらに大項目Cへの接続の視点を明らかにすることができた。

③法的主体に関する単元開発チーム

本研究の成果は次の通りである。

ア 「法的主体」に関するテーマ毎の授業を開発できたこと。

イ 中学校会公民的分野との「差別化と連携」を意識して授業開発を行ったこと。

ウ 模擬裁判や模擬調停といった新しい教育方法で行った授業の具体とその在り方を示すことができていること。

④知的主体に関する単元開発チーム

中学校2年地理的分野において1つ、高等学校1年「公共」において2つのモデルプランを開発することができた。

中学校段階のものは、「情報について知ろう」というモデルプランである。地理的分野の「地域の在り方」終末の単元として、情報の読み取りについて考える機会として設定した。またねらいとしては、高等学校1年から始まる「公共」を意識しつつ、中学校3年公民的分野につながる単元として設定した。

高等学校段階のもの1つは、「選挙・投票とインターネット」というモデルプランである。10代、20代の投票率の低さを認識したうえで、選挙に関する情報収集の仕方や多様な投票の仕方について学び、選挙への意欲関心を高めるとともに、模擬投票を通して、どのように投票するかを体験し、将来行われるかもしれないインターネット投票について考える単元として設定した。もう1つは、「学校にミマモルメを導入するべき!？」というモデルプランである。社会の在り方を探究させることを重視する学習過程を組織化する必要がある、情報の発信者の立場から情報の役割や活用方法について考察する学習活動を重視したものである。単元を通して、情報に関する諸課題について考察することで、社会に参画するための手掛かりとなる自由・権利や責任・義務などの概念や理論の理解を深め、安全を視点として地域社会の在り方を探究することを目指すものである。

C. 持続可能な社会づくりに関する単元開発グループ

本グループは、「レポートの作成」に留まらず、そこに「社会参加学習」「シミュレーション学習」の2つを加えて、多様なモデルプランを提示できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 谷田部玲生他 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 日本公民教育学会 科学研究費補助金プロジェクト 中間報告 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 公民教育研究 | 6. 最初と最後の頁 49-66 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| 2020年1月12日に東洋大学白山キャンパスにおいて、「新科目『公共』を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究」最終報告会を実施した。 |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-------------------------------|----|
| 研究分担者 | 栗原 久 (Kurihara Hisashi) (00345729) | 東洋大学・文学部・教授 (32663) | |
| 研究分担者 | 大澤 克美 (Osawa Katsumi) (20323735) | 東京学芸大学・教育学部・教授 (12604) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 鷲原 進 (Oshihara Susumu) (30335880) | 愛媛大学・教育学部・教授 (16301) | |
| 研究分担者 | 中原 朋生 (Nakahara Tomoo) (30413511) | 環太平洋大学・次世代教育学部・教授 (35314) | |
| 研究分担者 | 唐木 清志 (Karakki Kiyoshi) (40273156) | 筑波大学・人間系・教授 (12102) | |
| 研究分担者 | 西村 公孝 (Nishimura Kimitaka) (40294730) | 鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (16102) | |
| 研究分担者 | 鈴木 隆弘 (Suzuki Takahiro) (40433685) | 高千穂大学・人間科学部・教授 (32637) | |
| 研究分担者 | 田村 徳至 (Tamura Yoshimichi) (60710085) | 信州大学・学術研究院総合人間科学系・准教授 (13601) | |
| 研究分担者 | 桑原 敏典 (Kuwabara Toshinori) (70294395) | 岡山大学・教育学研究科・教授 (15301) | |
| 研究分担者 | 橋本 康弘 (Hashimoto Yasuhiro) (70346295) | 福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）・教授 (13401) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|--|-------------------------------------|----|
| 研究 分 担 者 | 桐谷 正信 (Kiritani Masanobu) (90302504) | 埼玉大学・教育学部・教授 (12401) | |
| 研究 分 担 者 | 磯山 恭子 (Isoyama Kyoko) (90377705) | 静岡大学・教育学部・教授 (13801) | |